

か  
掛け札一覧表

	表示年	掛け札の表題	板材の大きさ	注釈	備考
①	明治14年 (1881) 2月	獅子太鼓 太鼓臺共寄附 録	1854 × 280mm	獅子頭・太鼓を取得するため、明治12年から3年間にわたり村内各戸から玄米の寄附を募った成果の記録・報告	<p>①～⑦は令和2年10月秋祭り準備中の青年部員が出村公会堂の天井裏で発見した。          [ 同月中に元の場所へ格納 ]</p> <p>②に「款待社」の記載があり、だんじりの台車裏面にも「款待社」の記載があるが、当時の各村落にあつた壯年層の自治組織のことである。</p> <p>また、③④⑤に「精隆社」の記載があるが、精隆社については富山学区のホームページに紹介があるので参照されたい。</p>
②	明治14年 (1881)	求買録 土蔵新築費用記録	1854 × 289〃	秋祭り関連用品(太鼓、獅子頭等)の新調・修繕関連経費の記録・告知 土蔵新築関連の労務・材料費の記録・告知	
③	明治28年 (1895) 4月	購求品目録	1882 × 246〃	明治28年2月に創設した(と思われる) 富山村精隆社の創設関連品購入品目の目録・告知	
④	明治28年 (1895) 8月	倉庫柵建築費用記	620 × 230〃	「倉柵」が何なのか、②で新築した土蔵をどうかしたのか、はたまた別の倉庫なのか分からぬが、倉柵に要した建築費の記録・告知	
⑤	明治32年 (1899) 1月	掲示 (唧筒購求)	1850 × 305〃	出村が消防ポンプを購入した時の寄付金の記録・告知。「内訳」には『唧』が1文字しか読めなかつたが、唧(しょく)には水鉄砲との意があり、消防ポンプと解明した。	
⑥	大正6年 (1917) 3月	大師堂改築寄附	1925 × 291〃	現在の地蔵堂の西に、南北方向に建っていた旧大師堂(明治以前の建物であったと思われる)の改築関連の寄附金等の記録・告知	
⑦	大正6年 (1917) 3月	共同蔵移転寄附人夫表	1938 × 310〃	「共同蔵」とはどこにあった倉で、その倉をどこに移転したのかさっぱり分からぬが、その移転作業を村人総出で勤労奉仕した記録・告知だと思う。	
⑧	大正9年 (1920) 9月	地蔵堂再築寄附連名	959×300 ×2枚	再築とあるからこの地にあった地蔵堂を建て直したときの寄附者の記録・告知。 平成30年の再築時、旧お堂の北面内壁に釘止めしてあるのが発見された。	大師堂の祭壇下の「保存伝承函」で保管している。

参 考

昭和以降の公共建物の新・改築・修繕記録

	表示年	掛け札の標題	板材の大きさ	注 釈	備 考
1	昭和41年 (1966) 3月	出村公会堂新築(棟札)	200×700	この時代には「掛け札」の手法はないが公会堂の天井裏の柱にこの棟札が釘留めしてある。	棟梁 湯浅廣吉 湯浅芳夫
2	平成11年 (1999)	大師堂内外壁上塗 改修工事費寄進者録	857×275	昭和30年頃に現在地へ移築したと思われるが、内外壁共に荒(土)壁ですきま風がひどく、住民の寄進によって外装(鉄板)及び内装(漆喰)左官工事をしたときの寄附記録。 このときは決算報告をし、掲示などはせず。	大師堂の祭壇下の 「保存伝承函」で 保管している。
3	平成30年 (2018)	地蔵堂再築経費寄進者 名簿	A4判普通紙に 金額と氏名を印 刷	6地域団体+547世帯、合計187万円 の寄附をいただき、回覧で決算報告と謝意 を伝えたが、個人情報の保護が言われる世 情もあり詳細一覧は公表せず、タイムカプ セルに入れて地蔵堂の天井裏に保管した。	再築に寄せられた 多勢・多額の芳意 を末長く将来へ伝 えたい。



(注) 2, 3については近年のことでもあり、氏名と寄附金額に関する情報は公開していません。